

Venture Café Cambridgeにおける“筑波大学ナイト”の開催とボストン地域の評価

ウォード知佳、和氣泉、○内田史彦（筑波大学）

1. はじめに

2019年8月29日（木）に、日本の大学としては初めて、世界有数のイノベーション拠点ケンブリッジイノベーションセンター（CIC：1 Broadway, Cambridge）で毎週木曜日に開催される“ベンチャーカフェケンブリッジ”のスポンサーとなり、在ボストン日本国総領事館の後援を得て、“筑波大学ナイト：The Role of Academia in Innovation”を開催した。

「日本の大学がケンブリッジで何をしかけるのか?」。この興味をもとに、現地の企業、スタートアップ、VCや在米機関の日本人が数多く参加した。本稿では、筑波大学ナイトの内容とその検証結果について報告する。



図1. Cambridge Innovation Center

2. 筑波大学ナイトの目的

日本最大の研究学園都市の中心に位置する筑波大学発ベンチャーは、2017年以降合計1億ドル以上を調達している。今後、CICに活動拠点を設けることにより、ボストン地域とのコラボレーションを進めたい。革新的で最先端の技術系スタートアップに会いたいと考えている投資家、日本との戦略的提携の機会を探している企業、他のエコシステムプレーヤーや学生との出会いの場とする。

3. 筑波大学ナイトの内容

(1) Opening Remarks

今回のイベントの後援をして頂いたボストン日本総領事館主席領事挨拶に続き、永田学長が

①日本と米国の大学を取り巻く産学連携、スタートアップの環境は大きく異なっていること、
②2019年から筑波大学は、日本国内にとどまらず、ボストンやシリコンバレーなど世界を牽引するイノベーション拠点に教員や学生を送り込み国際的なスタートアップ活動を促進していく方針を述べた。

(2) パネルディスカッション

テーマは、Academia as a Catalyst for Innovationである。パネラーのメンバーは、第一にダイバーシティが優先された。ベンチャーカフェが指名したBAE System Inc.のNancy Saucier氏をModeratorとして、MITのJacob Levin氏、石井裕教授、筑波大学のベントン副学長、落合陽一准教授がパネリストとして参加した。



図2. パネルディスカッション



CIC Founder, Mr. Timothy Rowe



MIT, Mr. Christopher Novel

図3. 会場からの質問

筑波大学・MITのスタートアップ支援施策に続き、投資を含めた日米のスタートアップ環境や経営人材の差に関して活発な議論となり、最後までフロアは立ち見状態であった。ベントン副学長は、学際性や国際産学連携本部による産

学連携やスタートアップの強化を、落合准教授は、教員が CEO になれること、特別共同研究事業などフレキシブルな体制がスタートアップの後押しをしていることなど、筑波大学の特徴を述べた。

CIC の創業者である Timothy Rowe 氏から、『日本からグローバルカンパニーで活躍できる CTO を育成するために何をすれば良いのか?』という質問が出た。ベントン副学長は、9 月から CIC コワーキングスペースに教員、学生を送り込みプロダクトマーケットフィットを現地研修する国際ユニコーン育成プログラムを紹介した。最後に石井教授が、『今回のテーマは、The Role of academia in innovation である。ファンドやマネーの議論に集中したが、大学にはサミットのようにたくさんの“頂き”がある。登る道もいくつもある。ロマンを持って取り組むことが重要だ。』と述べ、会場から大きな拍手が沸いた。学内ポリシー視点については Levine vs. Benton 先生、研究者（起業家）視点では、落合先生 vs 石井先生という MIT・筑波大ペアリングが活発な議論を呼び起こし、Nancy 氏の一流の進行とあいまって良い成果が産まれた。

(3) フラッシュトーク & ネットワーキング

フラッシュトークは、え！というほど小さなガラス張りの小部屋で行われた。しかし、これがベンチャーカフェスタイルである。筑波大学教員発ベンチャー4社が発表した。小さな部屋にぎゅうぎゅうに 2,30 人が入り密な議論が行われた。ガラス越しに覗く人も多く見られた。



a. フラッシュトーク b. ネットワーキング

図4. フラッシュトーク & ネットワーキング

4. 検証

(1) SNS 反響 : Venture Café Cambridge では、8 月 29 日の開催日まで 23 万 3000 件の

SNS へ表示 (Impressions) をした結果、反響 (いいね!、リツイートなど) の割合を示すエンゲージメント比率(Engagement Rate) は 0.5%であった。決して高い数値ではないが、知名度の低い日本の大学でありながら、1000 件以上の反響があったと言える。

(2) 開催当日 : 合計 343 名の聴衆が集まった。うち女性が 29%、Venture Café に初参加者が 27%を占めた。

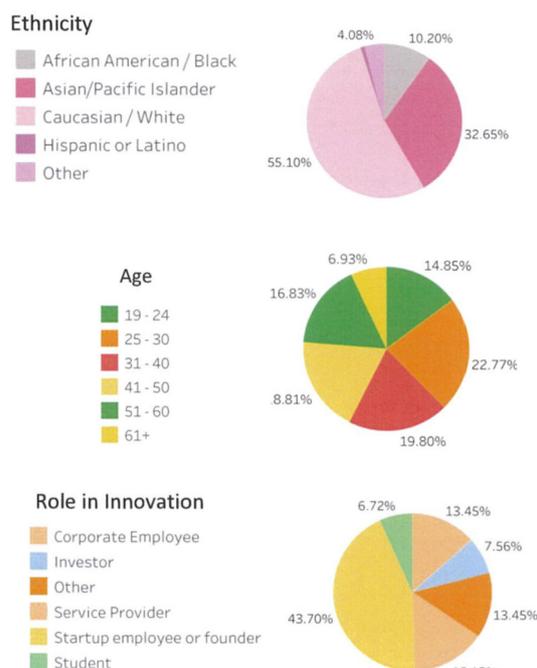


図5. 参加者の分析

人種別では、3分の1がアジア系であったことが本会の特徴である。参加したハーバード大学の日本人留学生は、今日はボストン中の留学生が来るのではと言っていた。それほど、筑波大学がベンチャーカフェを開催することが日本人サークルでも注目されたとのこと。年齢は、各世代がバランスよく参加、参加者は、スタートアップの創設者、社員が半分近くを占め、CIC ならでは結果となった。

5. まとめ

日本の大学として初めてスポンサーとなって開催した Venture Café Cambridge 「筑波大学 ナイト」を実施した。今後も継続を志向し、ボストン地区でのエビデンスを高めていく。